

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

103

企画展

小さなもの集まれ!

— 雑道具から古民家模型まで —

福島県立博物館



冬の企画展

「小さなもの集まれ！― 雛道具から古民家模型まで―」

心楽しむ極小の美・雛道具！ 思わず見とれる驚異の技・古民家模型！

千点を越える極小雛道具、川内コレクション初公開！！

熱中人夢想庵の驚異の古民家模型六〇点以上一挙公開！！

会期：二〇二二年二月一八日（土）～五月三日（日）

会場：福島県立博物館企画展示室



福島市の古民家模型（個人蔵）



山形県上山市の古民家模型（個人蔵）

「小さなものは愛らしい！」「小さなものは美しい」小さくなるだけでなぜか不思議な魅力が出てきます。小さなものを集めてみよう！ 展示会の企画はこんなことから始まりました。中心となるのは、雛道具のコレクションと、古民家模型、そして裁縫雛型。

雛道具は七澤屋という江戸の有名なお店が精魂こめてあつらえたものも含む川内コレクション。集めたのは根っからのミニチュア好きコレクター川内由美子さん。しかも会津若松ゆかりの方です。精巧な作り思わず感嘆の声をあげてしまうでしょう。この川内コレクションはなんと本邦初公開で、しかも公開数は一〇〇〇点を越えるという大規模なものです。

それから、古民家模型。いわき在住の熱中人夢想庵こと菅野清八さんが作りあげた模型は、いわゆる学術模型とは一味違います。もちろん、正確な調査の上に作られ本物そっくりの精密さ。でもそれだけに飽き足らず、現在の生活の痕跡もそのまま再現したものです。自慢は茅葺屋根。素材を集める苦労もなんのその、素晴らしい茅屋根の質感は感動ものです。見ていると自然と世界に引き込まれ、魅せられ時を忘れてしまいそうです。

そして裁縫雛型。裁縫を習う過程で、ミニチュアを縫いあげることでにより技術も習得でき布も節約できるといふもので、かつて裁縫学校ではやったもののようなのです。縫いあげたのは名もなき女性たち袴や長着はもちろん、女兒簡単服、シャツ、ワンピース、蚊帳、油筆（筆筒に掛けるもの）までバラエティーに富んで目を楽しませてくれます。それから特別な着物雛型も集まりました。東京都八王子市在住の方が自分で集めた着物を五分の一に縮小して縫い直したかわいらしい着物。どんな方から頂いたかという情報も記録されています。そのほか、いろいろ集合したかわいらしくも小さなものたちの姿をお楽しみください。



川内コレクション 雑道具 楽器 (個人蔵)



川内コレクション 犬笛 (個人蔵)

■主な展示資料

雑道具川内コレクション (東京都・個人蔵)

古民家模型 (いわき市・菅野清八氏製作)

裁縫雑型 (当館蔵、須賀川市立博物館蔵)

着物雑型 (安藤やす江さん製作・国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館蔵)

神社奉納千石船模型 (川俣町春日神社)

東座敷 (組み立て式の住居雑型)、芥子雑 (須賀川市・個人蔵)

鍛冶屋ミニチュア (会津若松市個人蔵) 民家模型 (本宮市・個人製作)

ミニチュア土器、石斧など

スイーツデコ (会津美里町・個人製作)

講演会

三月一日 (日) 午後一時三〇分

菅野清八さん「茅葺屋根の古民家に魅せられて」

ギャラリートーク

四月八日 (日) 午後一時三〇分

川内由美子さん「雑道具、川内コレクションについて」

展示解説会

二月十八日 (土)、三月二〇日 (火・祝)、四月十五日 (日)

いずれも午後一時三〇分から

※ポイント展「ちいさな雑祭」を部門展示室内にて二月三日～

四月三日の会期で開催

企画展

「生誕四〇〇年記念 保科正之の時代」関連行事

記念講演会 1

「保科正之とその同志たち〜江戸儒学の黎明期〜」

日時：一〇月二六日(日) 一三時三〇分〜一五時〇〇分

講師：東京大学人文社会系研究科准教授 小島 毅さん

中国思想史(特に儒教史)の研究者であり、著書『江と戦国と大河 日本を「外」から問い直す』(光文社新書)も注目を集めている小島毅さんのご講演とあつて、たくさんの方にお越しいただきました。難しいテーマではありましたが、日本における儒学の展開を踏まえながら、江戸時代初期に転換期を迎える中で保科正之がどんな役割を果たしたのかについて、多くの話題を盛り込みながら分かりやすくお話いただいたため、来場者のみなさまから好評を博しました。



記念講演会 2

「保科正之はなぜ神に祀られたか」

日時：二月二七日(日) 一三時三〇分〜一五時〇〇分

講師：歴史学博士

真壁 俊信さん

長年にわたって『神道大系』の編纂に携わられた真壁俊信さんから、吉川惟足から吉田神道の最高の秘伝並びに土津霊神の霊社号を授与された保科正之が死後、

磐梯山麓の土津神社に祀られ「大明神」と崇められるまでの流れを、企画展の展示品と関連させながらお話いただきました。ユーモアあふれるエピソードも多く織り込んでいただいたため、会場は終始笑い声につつまれていました。また、講演の最後には、「四重奥秘」や「会津大明神 神霊号位」等の貴重な史料をご披露いただき、企画展の最後を飾る行事として大盛況のうち幕を閉じました。



「保科正之とその時代〜ゆかりの大名家からさぐる〜」

シンポジウム

日時：二月六日(日) 一三時三〇分〜一六時二〇分

講師：財団法人前田育徳会理事・尊経閣文庫主幹

菊池 紳一さん

米沢市上杉博物館学芸主査

角屋 由美子さん

彦根城博物館学芸史料課史料係長

野田 浩子さん

会津藩の外からみた保科正之の人物像に迫ることをねらいに企画されたシンポジウムで、正之と深いかわりがあった前田家・上杉家・井伊家に関する研究の第一者の御三方に、各大名家と正之との関係についてご報告をいただき、その後議論を実施しました。日ごろから各家の資料に間近で接し研究を進められているみなさんのお話は、とても具体的で、それぞれの家の事情と関連づけながら正之との交際の様子をご紹介くださっ



ため、正之の存在意義を明らかにしていく上で貴重な機会となりました。

会津慶長地震シンポジウム

日時：二月一九日(土) 一三時三〇分〜一六時三〇分

講師：元通産省工業技術院地質調査所地質情報センター長

鈴木 尉元さん

新潟大学文学部准教授

堀 健彦さん

二部構成で実施され、第一部では鈴木尉元さんから「会津の地震・信濃川の地震と太平洋沖の地震」、堀健彦さんから「会津慶長地震と災害の記憶―『新編会津風土記』を例として」の題で、それぞれご講演をいただきました。会場からは三月二日に発生した東日本大震災に関連した質問も数多く寄せられ、それに講演者の御二方が丁寧にお答えくださいました。第二部ではエンタランスホールにパネルを並べて「慶長地震と会津の地盤災害史」と題したポスターセッションが行われ、会津慶長地震プロジェクトチームのみなさんによる九つの研究の成果について、報告者と聞き手の間で活発な意見交換をする姿が見られました。



その他、会期中には二度にわたって鶴ヶ城天守閣との合同企画として保科正之展リレー解説会が行われ、数多くの方に参加していただきました。また、企画展図録には、小島さん、真壁さん、菊池さん、角屋さん、野田さんから特別に寄稿いただいておりますので、こちらもご覧いただければ幸いです。

(歴史担当：古山 智行)

Q・岩石の名前にはどんな意味があるのですか？
なかにはたいへん難しそうな名前もあるようです
が。

A・はい。岩石の名前には、日常生活では馴染みの
ないものも多く、その意味が分かりにくいですね。
しかもなかには難しそうなものもあります。

まず、難しそうな名前があるのは、明治期に欧米
の自然科学が輸入されたとき、当時の学者が欧米流
の岩石の分類と命名にならって日本語を当てたもの
が今も使われているためです。明治期の学者は漢字
に対する知識が豊富でしたから、現代の私たちが難
しく感じる漢字も使われているのです。

「岩石の名前の意味」

さて、岩石の名前の意味、あるいは由来をいくつ
かご紹介しましょう。

玄武岩。玄武は古代中国の伝説において東西南北
の四方のうち北を守護する神で、その姿は黒い亀で
象徴されます。このことから、兵庫県豊岡市にある
黒い岩石でできた大きな洞窟が、江戸時代後期に
「玄武洞」と名づけられました。玄武岩は、この「玄
武洞」の意味です。玄武岩の英語名 basalt は、
武洞の岩石の意味です。玄武岩の英語名 basalt は、
ヨルダン東部にある古地名 Basrah に由来する、ま
た、ギリシア語で試金石を意味する basanos に由来
する、などの説があるようですが、日本語訳との関
連はありません。なお、玄武洞は採石により人工的

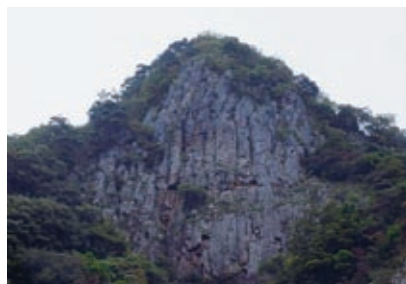
に作られた洞窟だそうです。

安山岩。英語名は andesite で、南米の「アンデス
山脈の岩石」を意味します。日本語の「安山」はア
ンデス山脈を意味しており、要するに直訳です。安
山岩は地質学的に見て造山帯を特徴づける火山岩な
ので、世界でも有数の造山帯であるアンデス山脈か
らその名がつけられたことは、まさにふさわしいと
いえるでしょう。

流紋岩。典型的な流紋岩には細かく平行な、流れ
のような縞模様（流理構造）が見られるので、この
名前は見かけのイメージとびったり一致します。一
方、流紋岩の英語名は rhyolite で、これはギリシア

語で溶岩の流れを意味する rhyax に由来するようで
す。したがって、岩石
の見かけ、英語名、日
本語のイメージが一致
しています。ただ注意
したいのは、現在の岩
石学では、分類上、組
成を重視し、見かけの
特徴はあまり重視しな
いため、流理構造が無
くても流紋岩に分類さ
れるものがたくさんあ

る。



会津若松市内で見られる安山岩の露頭（傘岩）

Q&A
回答者
自然担当
相田 優

ることです。

さて、難しい漢字
の名前です。橄欖岩。
「かんらんがん」と読
みます。これは鉱物
の橄欖石を多量に含
む岩石です。橄欖石
の英語名は olivine で、
これはオリーブを意
味するラテン語の
oliva から来ています。
ところで、幕末期に聖書を漢語訳したとき、この
oliva に「橄欖」の訳語を当てたそうです。しかし橄
欖は東南アジア原産の樹木で、オリーブとは全く別
物だそうです。ところが果実がそっくりなため、同
じ植物だと勘違いして oliva の訳語に橄欖を当てて
しまったというのです。そして明治の科学者は、こ
の聖書の誤訳を鉱物の olivine の訳語にそのまま当
て、橄欖石としてしまいました。その結果、現在で
も鉱物の olivine は橄欖石、それを多量に含む岩石
は橄欖岩と呼ばれているのです。



県内に分布するさまざまな火山岩

次に斑糲岩。これは「はんれいがん」と読みます。
糲は訓読みで「くろごめ」と読み、玄米の意味です。
したがって斑糲岩は、まだら状に黒い玄米のような
点々がある岩石という意味で、岩石の見かけを表現
しているようです。さて、斑糲岩は英語で gabbro
であり、これは昔のイタリアの小村の名前、あるいは
「なめらかな」を意味するラテン語の gaber から
派生した、などの説があります。明治の学者はこの
gabbro という名前と、その名の岩石はどれなのかを
知っていて訳したのですから、日本語訳の「斑糲岩」
は原義とは無関係に当てられたと考えられます。

『集古十種』の十種について

佐藤 洋一 歴史担当

松平定信は、寛政一二年（一八〇〇）に『集古十種稿』版本を刊行しました。これは文字通り稿本段階の版行でしたが、これが刊行された後も『集古十種』の編纂作業は継続されており、増補改訂はなされていきました。増補改訂がある程度まとまりがついた段階で『集古十種』版本の定本ともいえるべき『集古十種』全八五冊が刊行されました。『集古十種稿』の版本は大半が利用され、凡例その他軽微な増訂は埋木・新刻して対処し、紙幅の増加分や大幅な改訂分は新規に開版されました。たとえば「印章類」の凡例のように、定信が「印章追加」に触れているので、定本確定時に定信が強く関与していたことは疑い得ません。定本確定時がいつで、どの版本であるかは未詳です。

その後、幕末期までに少なくとも五段階の時期に後刷り本が作成されたと推察できます。『集古十種』誕生後数え年百歳の年の明治三二年（一八九九）に、青木嵩山堂から後刷り本が版行され、その後、写真製版による縮刷版が各種刊行されました。

筆者は、かつて『集古十種』版本の刊行過程について（『福島県立博物館紀要』第23号、二〇〇九年三月、二二九頁～一四八頁）において、『集古十種』版本の刊行過程を考察し、『集古十種』版本の分類

項目の順序を分析して、当初に想定された分類項目（「部」と「類」が混在している項目もあるので「分類項目」とする）の順序を試案として提示しました。本稿では、その要点を紹介しています。

その分類項目の試案は、当然のことながら『集古十種』の書名に関係してきます。すなわち、何をもつて「十種」とするかという分類に関係してくるので

「十種」については諸説がありますが、十項目として十種類の内容を問う場合と、十種に拘らないで十種以上⇨多数とする場合の二つに大別できます。諸説の紹介は、割愛しますが、拙稿では、周辺史料をも加味して、十種類の分類項目とその順序を以下のように抽出しました。

- ① 「碑銘」
- ② 「鍾銘」
- ③ 「兵器」 「甲冑」
- 同右 「旌旗」
- 同右 「弓矢」
- 同右 「刀剣」
- 同右 「馬具」
- ④ 「銅器」
- ⑤ 「樂器」
- ⑥ 「文房」
- ⑦ 「印章」
- ⑧ 「扁額」
- ⑨ 「法帖」
- ⑩ 「古畫」

いずれも『集古十種』版本の題簽に見える名称であります。

ただし、書名に関わる分類項目ですが、書名を論ずるには、编者松平定信の編纂意図や理想像にまで言及する必要があり、そのためには、増補改訂前の『集古十種稿』の各凡例と『集古十種』版本の各凡例を比較検討しなければなりません。したがって、『十種』の内実については、稿を改めて論じたいと思います。

なお、当館ではテーマ展「松平定信編集『集古十種』刊本のいろいろ」を平成二四年一月二八日（土）から二月二六日（日）まで開催しています。会場は、当館常設展部門展示室「歴史・美術」です。常設展観覧料でご覧になれます。江戸期から近代（明治期・大正期・昭和期）の刊本の各種を展示しています。

特に江戸期の刊本については、福島県内に所在する刊本を借用して展示することができました。三春町歴史民俗資料館所蔵本三三冊、白河市立図書館所蔵本四二冊、福島県立図書館所蔵本は、八四冊と八五冊の二組があります。いずれもすばらしい資料です。『集古十種』の歴史がいろいろわかります。



松平定信像 館蔵

テーマ展 旧家の美術

会期：3月3日（土）～4月15日（日）

会場：常設展部門展示室 歴史美術

観覧料：大人・大学生260円（常設展料金でご覧になれます）、小中校生無料

城下町の会津若松だけでなく、山深い南会津地方でも美術工芸や文芸を楽しみ育てる文化が花開いていました。このたびのテーマ展では、南会津町の旧伊南村の旧家に伝わった書画をご紹介します。初公開の作品が多く含まれます。是非お越し下さい。



佐竹永海・遠藤香村・蒲生羅漢筆「松竹梅図」
文久3年（1863）

谷文晁筆・大窪詩佛賛「蓬莱山図」
江戸時代後期

福島県立博物館移動展
主催：福島県立博物館 いわき市石炭・化石館

永山巨コレクション展

第二次世界大戦後の日本経済の復興に大きな貢献をした常磐炭田。映画「フラガール」で有名になりましたね。いわき市内郷在住の永山巨（わたる）さんは、戦後約三〇年にわたり常磐炭礦（株）で事務職として働き、その間、炭鉱関係の資料を集めました。収集した資料は、採炭道具、坑夫の装備、坑内の照明器具、専用鉄道の信号燈、炭鉱住宅での共同生活を示す資料など多岐にわたり、今ではほとんど手に入らないものばかりです。永山さんのご厚意で、収集した資料三〇〇点余りが博物館に寄贈されました。

このたび、寄贈資料を、永山さんの地元のいわき市石炭・化石館で、県博の移動展として公開します。この展示を通して、石炭が黒ダイヤと呼ばれた時代、炭鉱で懸命に働いた人々の仕事の様子や、炭鉱社会で助け合って生活した人々の姿を知っていただければと思います。また、この展示会が、東日本大震災により大変な被害を受けられたいわき地域のみなさんの復興の手助けとなれば幸いです。



専用鉄道の信号燈

■会期：平成二十三年二月一七日（土）～平成二十四年二月二八日（火）
■会場：いわき市石炭・化石館（いわき市常磐湯本町向田三二）

企画展

冬の企画展

「小さなもの集まれー雑道具から古民家模型までー」
会期 2月18日(土)～5月13日(日)

◎冬の企画展関連行事

企画展講演会「茅葺屋根の古民家に魅せられて」

日時 3月18日(日) 13時30分

会場 福島県立博物館講堂

講師 菅野清八さん

ギャラリートーク

「雑道具、川内コレクションについて」

日時 4月8日(日) 13時30分

展示解説会

日時 2月18日(土)、3月20日(火・祝)、
4月15日(日) 各回13時30分

テーマ展

※常設展料金と同一になります

「ふるさとの考古資料2ー『会津美里町』遺跡探訪」

会期 平成23年6月4日(土)～平成24年5月13日(日)

「ふくしまの大地をつくる石たち」

会期 平成23年12月10日(土)～平成24年1月29日(日)

「吉祥 めてたいものたち」

会期 平成23年12月10日(土)～平成24年1月22日(日)

「松平定信編集『集古十種』刊本のいろいろ」

会期 1月28日(土)～2月26日(日)

「旧家の美術」

会期 3月3日(土)～4月15日(日)

ポイント展

※常設展料金と同一になります

「はじまりの考古学 注口土器のはじまり」

会期 平成23年8月30日(火)～平成24年3月18日(日)

「はじまりの考古学 米作りと石の道具」

会期 平成23年8月30日(火)～平成24年3月18日(日)

「はじまりの考古学 塩つくりのはじまり」

会期 平成23年10月18日(火)～平成24年3月18日(日)

「くらしの石ー稲荷原石で作った火の道具」

会期 平成23年12月1日(木)～平成24年2月3日(金)

「はじまりの考古学 埋められたお経ー会津の終塚」

会期 平成23年12月20日(火)～平成24年3月18日(日)

「旧石器時代の差」

会期 平成23年12月20日(火)～平成24年3月18日(日)

「番外で再発見ー若松城下のくらし」

会期 1月28日(土)～3月2日(金)

「近代化遺産ー旧南会津郡役所」

会期 1月28日(土)～3月2日(金)

「小さな雑祭」

会期 2月23日(木)～4月3日(火)

ミュージアムイベント

※は要申込

※館長サタデープロジェクト

「東北復興シンポジウム『海やまのあいだに生きる』」

日時 3月3日(土) 13時～16時

会場 福島県立博物館講堂

講師 宗教学者

福島原発行動隊理事長

静岡県知事

国際日本文化研究センター教授

NPO法人アスクナイチャー・ジャパン副理事長

福島県立博物館館長 河本英典さん

館長サタデープロジェクト

「震災を考えるージオパークが目指すもの」

日時 3月17日(土) 13時30分～15時30分

会場 福島県立博物館講堂

講師 岩手県立博物館首席専門学芸員兼学芸第一課長

福島県立博物館専門学芸員 大石雅之さん

福島県立博物館館長 竹谷陽二郎

福島県立博物館館長 赤坂憲雄

木曜の広場

「遠野物語」を読む22

日時 1月19日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む23

日時 2月16日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む24

日時 3月15日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

◎考古学講座

「はじまりの考古学5『埋められたお経ー会津の終塚』」

日時 1月14日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 大竹正浩

※「勾玉・ガラス玉を作ろう」

日時 3月11日(日) 13時30分～16時

会場 福島県立博物館実習室

講師 学芸員 高橋 満ほか

◎美術講座

※「描こう・作ろうはりはりアート」

日時 2月5日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館実習室

講師 学芸員 金澤文利

◎歴史講座

人物シリーズ1「松平定信と会津の古文化財」

日時 2月11日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 佐藤洋一

人物シリーズ2「山本八重の人物像をさぐる」

日時 2月25日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 古山智行

人物シリーズ3「保科正之と家訓」

日時 3月10日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 阿部綾子

人物シリーズ4「蘆名盛氏と子どもたち」

日時 3月24日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 高橋 充

後援事業

※は要申込

※「稲織り・糸紡ぎ講習会」

日時 2月26日(日) 13時30分～15時30分

会場 福島県立博物館実習室

講師 学芸員 榎 陽介

やさしい展示解説

*展示解説員による常設展総合展示の案内です。

*毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
*その他、行事等の詳細に関しては、月行事予定やホームページをご覧ください。

1月～3月の休館日

1月 1日(日)～4日(水)・10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)
2月 6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)
3月 5日(月)・12日(月)・19日(月)・21日(水)・26日(月)